

難関資格の最短ルート、

アガルート

|受|講|相|談|限|定|

最短合格 学習ガイドブック

通関士試験

通関士試験

合格ハンドブック

AGAROOT ACADEMY

目次

第1部: 通関士試験の全体像と学習の基本戦略

1. 通関士とは
2. 通関士試験の概要
3. 試験科目と配点
4. 合格に向けた学習戦略の要点

第2部: 合格へ導く学習カリキュラム戦略

- Step 1: 基礎力養成期(知識のインプットと土台作り)
- Step 2: 実践力・応用力養成期(アウトプット中心の訓練)
- Step 3: 実力完成・総仕上げ期

第3部: 合格後のキャリアと実務

1. 組織内での活躍(勤務)
2. 独立開業という選択肢
3. 先輩合格者の声
4. 合格後に必須となる「実務能力」

第1部: 通関士試験の全体像と学習の基本戦略

1. 通関士とは

- 貿易に関する唯一の国家資格

通関士は、国際物流の最前線で、輸出入を行う個人や企業に代わって、税関に対する輸出入申告などの手続き(通関業務)を行う専門家です。複雑な法律や手続きが絡む貿易において、法律に基づいた適正かつ円滑な貨物の通関をサポートする、社会的に非常に重要な役割を担っています。

この資格を持つことで、貿易や法律に関する高度な専門知識を有していることの証明となり、業界内で高く評価されます。まさに「貿易のスペシャリスト」と言えるでしょう。

資格取得後は、通関業者や国際物流会社(フォワーダー)、商社、メーカーの貿易部門など、活躍の場は多岐にわたります。AI化が進む現代においても、法律の解釈や税関との折衝など、専門的な判断が求められる業務はなくなり、その将来性は非常に高いと言えます。グローバルな舞台で専門性を活かして活躍したい方にとって、非常に魅力的な資格です。

2. 通関士試験の概要

- 受験資格: 学歴、年齢、国籍、実務経験などの制限はなく、どなたでも受験できます。
- 試験日: 年1回、例年10月上旬の日曜日に実施されます。
- 申込期間: 例年7月上旬から8月上旬頃です。
- 合格発表: 例年11月下旬から12月上旬頃です。

近年の試験結果

年度	申込者数	受験者数	合格者数	合格率
令和5年	7,653人	6,362人	1,534人	24.1%
令和4年	7,431人	6,194人	1,186人	19.1%
令和3年	8,367人	6,929人	1,100人	15.9%
令和2年	8,029人	6,757人	1,140人	16.9%

- 合格基準

合格するためには、「①試験全体の総得点」と「②各科目ごとの得点」の両方で基準を満たす必要があります。具体的には、原則として全ての試験科目で満点の60%以上の得点を取らなければなりません。

一つでも基準に満たない科目があると、他の科目が満点でも不合格となる「足切り」制度が採用されているため、苦手科目を作らないことが非常に重要です。

3. 試験科目と配点

試験は3つの科目で構成されており、午前と午後に分かれて実施されます。

- 午前(1時間35分)
 - 通関業法(配点45点): 通関業を営む上でのルールを定めた法律。
 - 関税法、関税定率法、その他関税に関する法律及び外国為替及び外国貿易法(配点60点): 輸出入のルール、関税の計算方法など、通関業務の根幹となる法律群。

- 午後(1時間45分)
 - 通関実務(配点45点):午前で学んだ法律知識を基に、具体的な計算問題や申告書作成問題が出題される実践的な科目。

最重要科目は、配点が最も大きい「関税法等(正式名称は上記②)」と、その知識を応用する「通関実務」です。この2科目が合否を大きく左右します。

4. 合格に向けた学習戦略の要点

学習時間と基本サイクル

合格に必要な学習時間は、一般的に400～500時間が目安と言われています。

最も重要な学習サイクルは、「講義を聴く・テキストを読む(インプット)」→「すぐに該当範囲の問題を解く(アウトプット)」という流れを高速で繰り返すことです。知識は、実際に使ってみて初めて「使える武器」になります。

科目別の攻略法

- 最重要科目(関税法等・通関実務)の攻略
この2科目は試験の核であり、学習時間の半分以上を割くべきです。特に、関税法等の知識がなければ通関実務の問題は解けません。まずは「関税法等」のインプットを徹底し、その知識を使って「通関実務」のアウトプット演習を行う、という流れを意識しましょう。
- 特徴的な出題形式への対策
「通関実務」で出題される計算問題や申告書作成問題は、配点が大きく、対策の有無で大きく差がつきます。これらは単なる暗記では対応できません。問題演習を繰り返し、解法のパターンを体に染み込ませることが不可欠です。
- 基準点(足切り)対策
配点の低い「通関業法」も、6割以上得点できなければ不合格となります。油断せず、基本的な問題を確実に得点できるレベルまで仕上げておく必要があります。過去問演習を通じて、安定して6割を超える力を養いましょう。

近年の出題傾向と応用力の強化

近年、単なる暗記だけでは正解できない、現場での判断を問うような「応用問題」が増える傾向にあります。未知の問題に対応するためには、法律の条文をただ覚えるだけでなく、「なぜこのようなルールになっているのか」という背景や趣旨まで理解することが重要です。根本的な理解を深めることで、応用力が養われます。

第2部:合格へ導く学習カリキュラム戦略

アガルートのカリキュラムは、知識を効率的に定着させ、実践力を養うために設計されています。ここでは、合格までの道のりを3つのステップに分け、各時期で取り組むべき講座とその活用法を具体的に解説します。

Step 1:基礎力養成期(知識のインプットと土台作り)

この時期の最大の目的は、試験範囲全体の知識を網羅的にインプットし、各科目の基本的な問題を確実に解けるレベルの「土台」を築くことです。焦らず、着実に知識を積み上げていきましょう。

- 講座名：合格総合講義
- 役割・獲得目標：
 1. 役割：通関士試験合格に必要な知識のすべてを、ゼロから丁寧にインプットするための講座です。アガルートでは「通関業法」「関税法等」「通関実務」を完全に切り離さず、並行して学習を進めるのが大きな特徴です。これにより、学習した内容を忘れにくくするだけでなく、科目間の関連性を深く理解できます。
 2. 獲得目標：各科目の基本的な概念や法律の趣旨を理解し、テキストに掲載されている基本問題を自力で解けるようになることが目標です。特に、「関税法等」の知識が「通関実務」の計算問題や申告書作成問題にどう活かされるのか、その繋がりを意識することが重要です。
- 効果的な学習法：
 1. まずは講義を視聴する：テキストをいきなり読み込むのではなく、まずは講義を視聴して全体像や重要ポイントを掴みます。講師が「ここは重要です」と強調する部分は、特に意識して聴きましょう。
 2. すぐにテキストを復習する：講義で学んだ範囲を、すぐにテキストで読み返します。映像と文字の両方で確認することで、記憶がより強固になります。
 3. 該当範囲の問題を解く：知識が新しいうちに、該当範囲の過去問や問題集にチャレンジします。インプットした知識をすぐにアウトプットすることで、「わかる」から「解ける」レベルへと引き上げます。このサイクルを高速で繰り返すことが、基礎力養成の鍵です。

Step 2：実践力・応用力養成期（アウトプット中心の訓練）

基礎力養成期で築いた土台の上に、得点力という「柱」を立てていくのがこの時期です。インプットした知識を自在に使いこなし、本試験で合格点を取るための実践的な訓練を積んでいきます。

- 講座名：過去問解説講座
- 役割・獲得目標：
 1. 役割：実際の試験問題（過去問）を解き、その解説講義を通じて、出題形式への対応力、解答のスピードと正確性を高めるための講座です。特に、複数選択式問題で求められる「全ての選択肢に対する正確な理解」を養う上で、過去問演習は不可欠です。
 2. 獲得目標：制限時間内に合格基準である6割以上を安定して得点できる力を身につけることが最終目標です。単に正解・不正解を確認するだけでなく、「なぜこの選択肢が正しいのか（誤っているのか）」を自分の言葉で説明できるレベルを目指します。また、自分の苦手分野を客観的に把握し、潰していくことも重要な目標となります。
- 効果的な学習法：
 1. 本番と同じ条件で解く：まずは必ず時間を計り、本番さながらの緊張感の中で問題を解きます。
 2. すぐに丸付けと解説講義の視聴：解き終わったらすぐに答え合わせをし、間違えた問題はもちろん、正解したけれども少しでも迷った問題については、必ず解説講義を視聴

します。自分がどのような思考プロセスで間違えたのか、正解への道筋は何だったのかを徹底的に分析します。

3. テキストへのフィードバック:間違えた問題や知らなかった知識は、必ず「合格総合講義」のテキストに戻って確認し、関連情報を書き込むなどして知識を集約させましょう。これを繰り返すことで、自分だけの最強のまとめノートが完成していきます。

Step 3: 実力完成・総仕上げ期

この時期の目的は、本番を想定したシミュレーションを通じて、培ってきた実力を最大限に発揮するための最終調整を行うことです。知識の漏れをなくし、万全の態勢で本番に臨みます。

- 講座名: 直前対策講座
- 役割・獲得目標:
 1. 役割: 全範囲の総復習、頻出論点の最終確認、そしてプロ講師による出題予想(ヤマ当て)を通じて、学習の最終仕上げを行う講座です。本試験で問われる可能性が極めて高い論点に絞って学習することで、短時間で最も効果的な得点力アップを目指します。
 2. 獲得目標: 試験本番での時間配分や解く順番の戦略を確立し、自信を持って試験に臨める状態になることが目標です。また、最後の最後に発見した弱点を克服し、知識の穴を完全になくします。
- 効果的な学習法:
 1. 模擬試験として活用する: この講座に含まれる模擬試験や演習問題は、本番と全く同じ時間設定で解き、最後のシミュレーションを行います。
 2. ヤマ当て講義を徹底的に復習する: 講師が「出題可能性が高い」と指摘した論点は、何を聞かれても即答できるレベルまで完璧に仕上げます。ここでの頑張りが、本番での1点を左右します。
 3. 「法改正対策講座」と並行して進める: 通関士試験では、法改正された点が狙われやすいため、「法改正対策講座」も必ず受講し、最新の情報にアップデートしておきましょう。

第3部: 合格後のキャリアと実務

通関士試験の合格、誠におめでとうございます。しかし、本当のスタートはここからです。この資格という強力な武器を手し、どのような未来を築いていくのか。この章では、合格後のキャリアパスと、プロフェッショナルとして活躍するために不可欠な「実務能力」について解説します。

1. 組織内での活躍(勤務)

多くの方が、まずは組織に所属してキャリアをスタートさせます。安定した環境で専門性を高められるのが最大の魅力です。

- 通関業者・フォワーダーなど
最も一般的なキャリアパスです。通関業者や国際物流を手掛けるフォワーダー、倉庫会社などで、通関士として登録し、通関書類の審査や作成といった専門業務に従事します。経験豊

富な先輩の下で、OJTを通じて実務のイロハを学べるため、着実にスキルを身につけることができます。

- 商社・メーカーなどの貿易部門
自社で輸出入を行う商社やメーカーの貿易・物流部門で、その専門知識を活かす道です。通関業者とのやり取りをスムーズに進めたり、関税コストの削減を提案したりと、事業の根幹に関わる重要な役割を担います。
- 組織で勤務するメリット
最大のメリットは、安定した収入を得ながら、お金をもらって実務経験を積める点です。特に資格取得直後は、教科書と実務のギャップに戸惑うことも多いため、組織のバックアップがある環境は非常に心強いでしょう。

2. 独立開業という選択肢

通関士は、経験と人脈を築くことで「独立開業」も可能な資格ですが、実際に独立する人は多くはありません。しかし、自分の裁量で仕事を進めたい、定年なく働き続けたいという方には大きな魅力を持つ選択肢です。

- 独立開業の魅力
 1. 自由度の高い働き方: 働く時間や場所、受ける仕事などを自分で決められます。
 2. 収入の可能性: 自身の努力と経営手腕次第で、勤務時代の収入を大きく超える可能性があります。年収1,000万円以上も夢ではありません。
 3. 定年がない: 年齢に関係なく、生涯現役で専門家として働き続けることができます。
- 独立開業の厳しさと求められるスキル
魅力の裏には厳しい現実もあります。独立するには、専門能力に加えて以下のスキルと覚悟が不可欠です。
 1. 経営者としてのスキル: 顧客をゼロから開拓する「営業力」、事業を継続させるための「経営・財務管理能力」、スタッフを雇用する場合は「マネジメント能力」など、通関業務以外のスキルが成功を左右します。
 2. 不安定な収入: 会社員と違い、収入は保証されていません。顧客を獲得できなければ収入はゼロになるリスクも伴います。
 3. 無限の責任: 業務上のミスが顧客に多大な損害を与えかねないため、常に大きな責任が伴います。
- 独立までの具体的なステップ
独立開業は、単に資格を取るだけでは実現できません。法的な手続きを含め、周到な準備が必要です。
 1. 通関士試験に合格する: まずはここから始まります。
 2. 豊富な実務経験と人脈を築く: 最も重要なステップです。通関業者などで最低でも数年間は勤務し、多様な案件を経験します。この期間に、将来顧客になり得る人脈を築くことも不可欠です。
 3. 「通関業」の許可を得る: 通関士として独立するには、まず個人または法人として「通関業」を営むための許可を税関長から得る必要があります。これには、経営の基礎（十分な資力）や人的構成が審査されるため、事業計画や資金計画が求められます。
 4. 開業準備を進める: 事務所の開設、NACCS（通関情報処理システム）の導入、その

他事業に必要な設備投資など、具体的な準備を進めます。

5. 営業活動を開始し、事業を軌道に乗せる: 許可を得て開業しても、仕事は自動的に来ません。これまでに築いた人脈や営業活動を通じて、顧客を獲得していく必要があります。

- 何よりも重要なのは「実務経験」です。お客様は「通関のプロ」としてあなたに依頼します。どんな複雑な案件にも対応できる実力と信頼を、まずは組織の中で十分に培ってから独立を考えるのが成功への王道です。

3. 先輩合格者の声

アガルートで学び、見事合格を勝ち取った先輩方の体験談から、学習のヒントを探ってみましょう。

- ケース1: 貿易実務未経験から一発合格(Aさん・社会人)
 - 学習スタイル:
仕事と両立するため、通勤中の電車内や昼休みなどのスキマ時間を徹底活用。講義動画は倍速で視聴し、時間を効率的に使いました。
 - 合格の秘訣:
とにかく過去問を繰り返すこと。特に苦手だった「通関実務」の計算問題は、毎日1問は必ず解くようにして体に覚えさせました。アガルートのテキストは情報が集約されており、最後まで信頼できる相棒でした。
 - 後輩へのアドバイス:
「最後まで諦めない気持ちが一番大事です。自分を信じて頑張ってください！」
- ケース2: 育児と両立して合格(Bさん・主婦)
 - 学習スタイル:
子供が寝た後の夜間や早朝が主な学習時間。家族の協力を得て、週末にまとまった時間を確保しました。学習計画を細かく立て、進捗を可視化することでモチベーションを維持しました。
 - 合格の秘訣:
インプットとアウトプットのバランスを意識しました。講義を聴いて理解したつもりでも、実際に問題を解くとできないことが多く、すぐに演習に移ることを心がけました。
 - 後輩へのアドバイス:
「時間がないことを言い訳にせず、やると決めたら集中することが合格への近道だと思います。」
- ケース3: ダブルライセンスを目指して合格(Cさん・行政書士)
 - 学習スタイル:
法律系の知識はあったものの、貿易の専門用語に苦戦。まずはアガルートの講義で全体像を掴むことに注力。その後、関税法など関連が深い分野から集中的に学習を進めました。
 - 合格の秘訣:
テキストに情報を一元化すること。過去問や模試で間違えた箇所は、すべてテキストの該当ページに書き込み、自分だけのオリジナル参考書を作り上げました。
 - 後輩へのアドバイス:
「他の資格との関連性を見つけると、学習が面白くなります。自分の強みを活かしてく

ださい。」

4. 合格後に必須となる「実務能力」

試験合格は、あくまでスタートラインに立った証です。実務の世界では、試験知識だけでは対応できない場面が数多く存在します。

- 試験知識と実務のギャップ
試験で問われるのは、主に法律の条文知識とその解釈です。しかし、実務では、その知識を土台として、お客様の多種多様な要望に応え、税関と折衝し、時には予期せぬトラブルを解決に導く能力が求められます。このギャップを埋める作業が、合格後の成長の鍵となります。
- 実務で求められる具体的な能力
 - コミュニケーション能力: 依頼主であるお客様へのヒアリングや説明、税関職員との交渉など、円滑な人間関係を築く力。
 - **NACCS**の操作スキル: 実際の通関手続きで必須となる電子システムを使いこなす技術。
 - 品目分類(**HSコード**)の知識: 膨大な品目の中から、輸出入する貨物がどれに該当するのかを正確に特定する専門知識。
 - 問題解決能力: 書類不備や検査での指摘など、予期せぬトラブルに冷静かつ的確に対応する力。

これらの実務能力は、日々の業務を通じて磨かれていくものです。アガルートでは、合格者向けに「貿易実務検定講座」なども用意しており、こうした講座を活用して知識をアップデートし続ける姿勢も、プロとして活躍するためには非常に重要です。

通関士としてのキャリアは、あなたの努力次第で無限に広がります。このハンドブックが、その輝かしい未来への第一歩となれば幸いです。